

令和7年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	一人一人の進路希望や興味・関心に対応するカリキュラムに特色がある学校として、学力の定着・向上、専門的な技術・能力の伸長を促す学習活動等を実施し、幅広い社会性を兼ね備え、地域に信頼され貢献する人材を育成します
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程や教科の自己評価シート及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、一人ひとりが希望する進路を実現する。 3 生徒会活動や学校行事、部活動を通して様々な体験・経験を積み、主体性、社会性を育成する。 4 学校生活の中で帰属意識を育み規律を身に付けさせ、地域に信頼され貢献する人材を育成する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価					年度評価（1月22日現在）		
年 度 目 標			年度評価（1月22日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○成績優良者も多くいる一方で、進路実現に向けて一層の基礎学力の定着、学力向上を図る必要がある。 ・各教科が進める授業改善の中で、育成したい力を明確にし、共通認識を持って授業実践を行う必要がある。 ・学びに対して受け身の生徒も多い。主体的に知識を獲得し、得た知識を使ってアウトプットする力を育成する必要がある。 ・生徒の学習環境の整備を引き続き進める。	基礎学力の定着・学力向上 主体的学習態度の育成 学習環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> ①各教科で育成したい力を明確にし、教科の自己評価シートに盛り込み実践する。 ②各教師の自己評価シートで育成したい力をつけさせる方策を立て実践する。 ③総合的な探求の時間を活用したアウトプット力を高める活動を実践する。 ④図書館利用の充実を一層進める。 ⑤各種補習の一層の充実を図る。 ⑥ICT活用、自習室の継続設置、学習サポーターの継続配置。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各教科（科目）で育成したい力を明確にできたか。 ②各教科の自己評価シートと各教員の自己評価をリンクできたか。 ③探究活動でアウトプット活動は取り入れられたか。 ④図書館の利用者数の増減。 ⑤補習開講数、及びされ参加状況。 ⑥ICT活用、自習室の効果的運営、学習サポーターの活用はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で身に付けさせたい学力を進学力としてまとめ、基礎学力の定着や進学指導のあり方等について、分掌、学年、教科と連携できた。また、指名補習により低学力生徒のフォローにも取り組んだ。 ・総合的な探究の時間を通して、発表に向けて主体的に取り組む姿勢が身についた。 ・考査前に新たに自習室を開放した。利用者数は増加しているが課題もある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学力の再定義と進学力の育成に見合う教育課程の見直しまで漕ぎつけた。次年度から本格的スタートとなる。学校自己評価というシステム内での目標の連鎖が重要である。 ・自習室でおしゃべりをしている生徒が見られる。自習室利用時に生徒各自の目標設定をさせる等の工夫が必要。 ・進学力の育成、生徒のニーズに合致した学習環境の整備の推進が必要である。
2	○就職に強い学校であるが、昨今進学希望者が増加しており、生徒の進学指導にも力を入れる必要がある。 ・進学希望者の増加に対して校内連携を図り、進学後に必要な学力の育成を含めたキャリア教育の充実を図る。 ・きめ細かい進路指導で成果を上げている。今後も面談指導等の充実で生徒の可能性を一層引き出す必要がある。 ○資格取得に強い指導力を持っている。引き続き効果的な指導を進める。	進学・就職希望に応じた個別指導の充実 各種検定や高度な資格取得の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> ①学校幹旋の就職内定率 13年連続 100%の実績を活かしてキャリア教育を進める。 ②進学補習の計画・実施、各学年と連携してスタディサプリ活用を研究する。 ③進学の目的意識を深めるキャリア教育を進め、進学に必要な学力を教務、各教科と連携して育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①就職希望者に適した職を紹介し内定率 100%を達成できたか。 ②補習への積極的な参加があったか。スタディサプリを計画的に活用ができたか。 ③組織的に生徒の進学力を高め、教員の進学指導力は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年が協力して、目的意識を深めるキャリア教育が実施できた。学校幹旋の就職内定率 100% 目前まで来ている。また、スタディサプリを活用した個別最適学習も活用状況レポートにより活用状況が共有できた。 ・通年補習は 17 講座開講、54 名（のべ 95 名）の参加申し込みがあった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12 月末日時点での進路決定率は 86.3%。就職内定率は 95%。今後も学校幹旋の就職内定率 100%を維持できるか、補習への参加者を増やせるかが課題である。 ・進学力の一つに資格取得がある。分掌、学年、教科が連携して資格取得に取り組む体制の構築が必要である。 ・次年度は3 学年でスタディサプリを活用。スタディサプリを効果的、計画的に活用することが課題である。
3	○生徒会活動、行事は充実している。引き続き生徒の主体的な活動を育成する。 ○松伏分校と協働で行う生徒会行事等を多く設けている。今後も松伏分校との行事を円滑に進める。 ○部活動に積極的な生徒が減少傾向にあり、部活動の活性化を図る必要がある。	生徒会を中心とした生徒の主体的活動の育成 部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会や委員会等の生徒を中心に、主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。 ②生徒会を中心に、分校との交流を密にする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会本部役員を中心に主体的に行事を計画、実施できたか。 ②分校との交流機会を遺漏なく行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校生活充実を目指して、新たに球技大会の計画・運営に取り組む等、主体的に活動する姿勢が育成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会生徒中心に生徒主体の学校行事が多くなっているが、部活動の部員定着率と生徒会HPの更新回数に課題がある。
4	○生徒は落ち着いて学校生活を送っているが、高校生の内に様々なルール・マナーを学ぶ必要がある。 ・交通安全・交通マナーを自分事として捉え、自分の身を守る意識を高める指導をしていく必要がある。 ・生徒のコミュニケーション能力の不足による躓きがないように、想像力を育み他者を思いやる心を育む。 ○地域と長年にわたり連携し、地域に必要とされる学校となった。 ・今後も地域に必要とされ、信頼される学校づくりを進め、本校の教育活動の魅力を発信していく。 ・学校の魅力発信のために広報活動に力を入れていく必要がある。	規範意識の育成と安全教育の推進 地域貢献と情報発信	<ol style="list-style-type: none"> ①交通マナーの大切さを理解させるために、きめ細かく、粘り強く指導する。 ②交通安全教室の実施やPTAと連携した交通安全指導を実施する。 ③いじめ等について未然防止・早期発見を心掛け、学校生活アンケートを毎学期実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①交通マナーへの意識は高まったか。 ②交通事故件数が減少したか。 ③アンケートの実施から、早期発見と予防が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松伏 Eight Policy に関するアンケート結果、体罰の実態把握に関するアンケート結果、自転車乗車時にヘルメットを着用して登校する生徒数の増加等により、規範意識の育成と安全教育の推進には成果があったが、自転車マナー、迷惑行為等に対する苦情電話が9件あった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ Matsubusi Eight-Policy に対する教職員対象アンケートを実施した。礼節・マナーを身に着けさせることについては、教職員の意識、成果ともに満足できる結果となった。課題は考える力と行動する力を身に付けさせるの2点。3年間という期間で見た場合、思いやる力（心）を身に付けたという3 学年の結果から判断すると、入学直後の中学4 年生を高校生まで成長させることができた。 ・地域連携は生徒募集に繋がっている。継続して取り組んでいく。
3	○部活動に積極的な生徒が減少傾向にあり、部活動の活性化を図る必要がある。	部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動のあり方検討チームを立ち上げ、活性化策を立て、実践する。 ②各部活動が活動の様子をHP等で情報発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①検討チームは機能したか。活性化策は機能したか。 ②部活動のHP等を活用して、活動報告が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部は合同レク、合同勉強会を実施した。文化部では吹奏楽部が全国大会出場、合唱部、写真部が関東大会出場を果たした。また、部活動の活性化を目的に、部活動合同清掃活動というイベントを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・検討チームが部活動の活性化に大きく貢献した。部活動合同清掃活動が実施されたが、この活動を本校の一大イベントと位置づけ、部活動のさらなる活性化を図りたい。

学校関係者評価	
実施日	令和8年1月27日
学校関係者からの意見・要望・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「進学力」を身に漬けさせるためには基礎学力の定着が欠かせません。そのため組織的な取組が進路指導部の達成評価となっており明るい兆しがある。自習室の改善も生徒主体での工夫を課題としているところがよい。 ・「進学力」を掲げ、総合的な学力向上を目指して組織的に取り組んでいることが分かりました。 ・低学力の生徒への丁寧な支援に感心しました。 ・目標設定は、最終目標から小目標を小刻みに設定し、生徒さんが自主的に取り組むことが大切です。
・松伏高校の強みをもって進路決定率が100%に近いことをもっとアピールすることが志願者を確実に増やすと思います。	
・学校としての体制が十分整っていることが分かりました。	
・生徒が将来を見据えて前向きな挑戦をすることで効果が一層高まると感じます。	
・今では小学校から英語の学びが始まっていることに鑑みて、英検などを義務的に行えたらよいと思いました。	
・生徒さんが人生の目的のビジョンを持つことが大切だと思います。	
・進路指導は親身になって乗っていただきありがとうございました。とても有難いです。	
・生徒会が色々な面で主体的に活動していることが見られたので、他校と連携しながら進めても面白いと思います。	
・今後のビジョンを実現するためには Matsubusi Eight-Policy の「思いやる力」、相手の立場に立つことが大切です。	
・主体的、自治的活動を進め、学校生活の維持向上に尽くしている。	
・今年度、吹奏楽部が力をつけてきたよううれしく思います。	
・規範意識としての育成は、先ず目の前に控えている自転車交通マナーの意識向上。ヘルメット装着率 100%と目指してもよいかと思えます。	
・松伏町は音楽の町。音楽科発展のために行政への働きかけが必要。	
・Eight-Policy を日常的に指導していることが分かりました。	
・地域との繋がりがあってこそ就職内定率 100%になっていると思います。	
・県内の音楽科の高校を見学しましたが、レッスン室など設備環境はとても良いと思います。	
・礼節は人間社会の基本なので地道に植え付けるのが重要だと思います。	
・ホームページの閲覧件数と受検倍率が伴っていないのはなぜだろうと思いました。	